

第16回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

## 推奨実践事例賞

研究校部門

# 小学校の社会科で どんな金融教育ができるのか

埼玉県・川越市立月越小学校 教諭 朝倉 大輔

知るぽると  
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2019

## はじめに

本校は児童数 300 名程度で、ほとんどの学年が 2 学級の比較的小さな学校である。

川越市の中心地に位置し、古い文化財も多く残りながら、数多くの商店が建ち並んでいる。年間多くの観光客が訪れ、特に外国人観光客数は年々増加傾向にあり、2018 年では約 28 万人に上った。ちなみに川越市の人口は約 35 万人である。町に繰り出せば日本人よりも外国人観光客に多く出くわす。そんな場面も珍しくない。

市街地で商店を営んでいる保護者もあり、児童が外国為替や海外のお金に触れる機会も珍しくはなかった。

## 研究にあたり

小学校で来年度から全面实施される新学習指導要領は、社会科については、社会的な見方・考え方を働かせて、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な公民としての資質・能力の基礎を養うことを大きな柱に据え、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で同要領は構成された。

また、その目標に関わるものとして、文部科学省からは、消費者関係教育を意識して教育に取り組むよう、学習指導要領に照らして、その主な内容が示された。

## 目指す児童像

そこで本校では、金融に関わる社会科の授業実践を複数の単元で行い、以下の 2 つの児童像を目指すこととした。

- ①「お金」に着目し、社会の仕組みを捉えるとともに、自分たちの生活と結びつきを考えることができるようになる。
- ②複数の学年、単元で金融教育を行うことで、より系統性を持って、主体的に社会的事象を捉え、考えることができる。

## 実践報告① 5 年生「日本の自動車生産」

時間	学習内容
1 2 3	様々な関連工場との協力によって、沢山の自動車を大工場生産することができる。
4 5 6 7	近年では、国内の生産台数よりも、海外での現地生産台数の方が多い。それにより企業側にメリットがある。
8	関税や為替によって輸出入での利益が異なる。
9	保護貿易、自由貿易のそれぞれのメリットからバランスのとれた生産拠点の確保と流通が大切である。

時数 1～3 までは、自動車の生産工程を扱った大工場と関連工場の連携や工夫などの学習であった。4～7 時間目で海外での現地生産台数の増加に着目させることで、国内生産にはないメリットが様々な存在することを気付かせる足がかりを作った。

8 時間目の関税、為替においては外部のゲストティーチャーを招き、ゲームを通して体験的に学んだ。さらに 9 時間目にもゲストティーチャーを招き、国内生産、現地生産の両方にメリットがあり、そのメリットは複数の要因から成立し、様々な状況によって左右されることを学びながら、国内生産・現地生産のバランスが大切であることを児童は見出すことができた。



**実践報告② 5年生「私たちの生活と情報」**

時間	学習内容
1 2 3	情報通信技術の発展に伴って、私たちの生活が豊かに便利になっていく。
4	情報通信技術の恩恵を受けるためには必ずしもデバイスを持っていなければならないというわけではなく、既存のサービスでもビッグデータが活用され、生活がより豊かになっている。
5	社会科見学 情報処理を駆使して株式の売買が行われている。 電子マネーが普及している昨今でも現物の貨幣には信用があり、その信用を確立するために様々な技術が活用されている。

1～3時間目では、政府が指針として示している Society 5.0 をきっかけに、遠い未来ではなく近い将来、情報通信技術の進歩によって生活がより豊かに、便利になることを学習した。児童は驚きとともに楽しみである様子であった。しかし、ここで考えさせたいのは、そうした便利な暮らしは、情報通信技術が活用されたデバイス（物）を持っていたり、購入したりしなければならないのかということである。

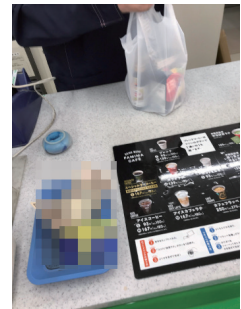
4時間目はゲストティーチャーを招き、身近な消費行動からポイントカードに着目して授業を展開した。ポイントカードの中には、多くの種別の店舗で使える共通ポイントカードがある。それはなぜか？また、そうした共通ポイントカードのポイントを利用するためには個人情報の登録が必要になる。それはなぜか？

そうした疑問をゲストティーチャーに解説してもらうことで、ビッグデータの収集、分析、活用の流れを児童は実感を持って理解することができた。

また、これまで店は「沢山買ってもらいたい」、客は「安く買いたい」と一見相反した関係として販売と消費を捉えていた児童たちも、ポイントカードのポイントによって店は「より良い商品を開発、販売、提供できる」、客は「より良い商品を購入することができる」と相互間でより良い関係を形成していけることを見出すことができた。

5時間目は社会科見学として東京証券取引所と造幣局に行った。東京証券取引所ではニュースで目にする、変動する株価をリアルタイムで見ることができた。株式の仕組みとともにその素早い値動きが情報処理に支えられていることの解説を受けた。

一方の造幣局では、主に硬貨の製造技術について解説を受けた。電子マネー等の目に見えないお金が普及している昨今でも、その価値を支えているのは円そのものの価値と、現物貨幣の偽造防止等の信頼性の高さであることを学習した。



**実践報告③ 3年生「私たちの生活と販売」**

時間	学習内容
1 2 3	スーパーマーケットでは様々な工夫によって集客をはかり、売り上げを伸ばしている。
4	値段や安全性、必要性等、様々な視点から買い物をするのが大切である。

1～3時間目は、まず、各家庭で買い物調べを1週間行った。その結果、コンビニなどの他の業種に比べてスーパーマーケットでの買い物点数が圧倒的に多いことがわかった。見学や取材を通して集客・販売のための店の工夫を学習した。

そうした店側の工夫の学習を受けて4時間目では、シ

7月5日の夕方、お家の人と夕食の準備をしています

- ① 今日の夕食はシチューです。
- ② 「たいへん！夕食のシチューにつかう分と明日の朝のむ分の牛乳がない！」
- ③ 「500円渡すから買ってきてくれる？」
- ④ 「おつりで おやつ買ってきていいから」
- ⑤ 「賞味期限よく見てね」

シミュレーションを通して、スーパーマーケットの牛乳を手前から買うか、奥から買うかについて考え、議論した。

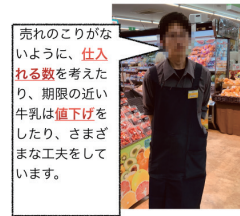
はじめ、児童の意見を聞くと9:1で「奥から買う」と答えた。理由を尋ねると「賞味期限が長ければ新鮮で長い期間飲むことができる」と答える児童が多くいた。

シミュレーションでは、5本の牛乳パックを用意し、5日間の買い物を実践した。「手前から買う」場合は全日で牛乳を買うことができた。「奥から買う」場合は廃棄する牛乳パックが出て、5日目のお客は牛乳が買えなかった。

そこで、スーパーマーケットの店長さんの工夫や乳価の決定方法、賞味期限の切れた牛乳の廃棄方法を紹介した。

その後、もう一度「牛乳を手前から買うか、奥から買うか」尋ねると、5:5という結果になった。「手前から買う」と答えた児童は「店長さんの工夫や苦勞を聞いて気持ちが変わった」、「廃棄がもったいない」、「今晚の夕食と朝食分なら賞味期限が近くても良い」と理由を述べた。

逆にシミュレーションを通してなお「奥から買う」と答えた児童は「スーパーマーケットの工夫はわかったけど、うちはお母さんが妊婦だから何度も買いに行けないから、長く飲める奥から買う」と述べた。選択に変化はなくとも深い考察が見られた。



牛乳の値段の決まり方



## 実践を通じた児童の気づき

### 5年生女子A

私たちは生活していくためにはお金が必要です。今は子どもなので仕事をしてお金をもらうということはありませんが、これから先、自分たちが大人になったら生活を豊かにしていくために仕事をする事の大切さがわかりました。

### 5年生女子B

お金の便利な点はモノと交換できる。ためておくことができる。価値の物差しになるということです。また、授業が進むにつれて、なぜ硬貨や紙幣といった貨幣で1万円の買い物ができるのかについて疑問を持ちましたが、社会科見学をして、それはみんなが1万円札を信用しているからということがわかりました。

最後に、クレジットカードや電子マネーなどで買い物する人が増え、お金がだんだん見えなくなっていることがわかりました。

### 5年生男子C

テレビなどで「今日の外国為替市場は……」と聞いてもよくわからなかったけれど、日本円と外国のお金の交換の比率のことを為替レートということやレートは様々な事情や事件で変動することなどがわかりました。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックでは川越市にも今以上に沢山の外国人が来るので、その国のお金が今日は日本円でいくらなのか少し気にして生活していきたいと思いました。

## 実践を終えて

社会的な事象を捉えようとした時に「経済」を抜きには捉えられない。農作物の生産、水産業や環境保全は本来、自然条件や社会的条件、人々の工夫だけでは成立しない。そこには「経済」が伴う。「経済」という言葉が難しければ「お金」で構わない。

また、教科内で、1単元で「金融教育」を学習させることは大変難しい。それほど金融とは複雑である。しかし、金融という言葉には抵抗感を覚える児童も「お金」には興味がある。

実践を終えて、社会的な見方、考え方の一つとして、また多面的・多角的に社会的な事象を捉える一つとして金融を絡めていくことは十分に可能であると実感した。大切なことは「金融を教える」ことではない。社会的な事象を捉える際に「金融にも触れ続ける」ことであると考えている。

また、各単元で金融について触れることで、この単元では、あの単元では、と系統性を持った積み重ねが図られ、児童の見方・考え方もより充実していくことが事後のノートからも推察された。

## 資料1 指導計画書

## 金融教育 指導計画書・報告書

川越市立月越小学校

## 1. 金融教育の背景

消費生活、貿易、様々な事業、産業も含め、お金を消費することで社会生活の営みが行われている。経済への影響、個人における金銭トラブルも含め、ますますお金に関わる教育は必要不可欠なものとなっている。また、近年では売買した情報からビッグデータの利活用へと拡充がはかれるようになり、市民生活に直結した取り組みも広く見られるようになってきた。しかし、こうした教育を行う機会はほぼ無いというのが教育界の現状である。小学校でもやっと消費者教育が展開されつつあるが、十分とは言えない。

## 2. 本校における金融教育の方針

- ①社会科を中核として、金融教育を行う。
- ②児童のみならず、教員もお金の動きについての理解を深める。

## 3. 本校の金融教育における目標

「お金」に着目し、社会の仕組みを捉えるとともに、自分たちの生活との結びつきを考えることができる。

## 4. 社会科における実施可能な金融教育の内容

社会科を中心に学習内容と取り上げた事項を下記の表に整理した。中心は5年生の学習となるが、小学校社会科全体で金融教育に関わる指導を重ねていく。

## 5. 実践報告

実施日	学年	活動内容
9月26日	3年	校区内のスーパーマーケットへ社会科見学に行き、お店の工夫や商品の流通について学習した。
12月3日	6年	税理士の方を講師とし、租税教室を開催。税金の使い道や税金の必要性について学習した。
12月3日	5年	大手金融機関からゲストティーチャーを招いて、為替についての授業。ゲームを通じて、円安、円高を学んだ。
12月4日	5年	金融広報アドバイザーをゲストに招き為替についての授業を行った。学習問題「日本の自動車をつくるなら、国内生産と海外の現地生産どちらが良いか」について、円高・円安、保護貿易・自由貿易等多角的な視点から国内生産・現地生産のメリットやデメリットを考えた。
1月15日	6年	金融広報アドバイザーをゲストに招き、税の役割について学習した。
1月24日	5年	金融広報アドバイザーをゲストに招き、ポイントカードを足がかりに、ビッグデータの活用と社会生活の充実について学習した。
2月5日	5年	社会科見学「東京証券取引所」「造幣局さいたま支局」に行き、株式の役割や硬貨の製造、流通について学習した。

## 資料2 指導案

## 第5学年 社会科学習指導案

在籍児童数 22名  
 (男子13名、女子9名)  
 授業者 朝倉大輔  
 活動場所 5年2組教室

## 1. 単元について 単元名 「ポイントでつながる社会」

## (1) 次のような子どもたちに (児童観)

本学級の児童にアンケートを実施すると、児童の多くは「買い物」の経験があった。しかし、その行動が消費活動であることにはあまり心当たりがない。また、何に気を配って買い物をするか尋ねると、「より安く買う」や「良いものを買う」との回答があった。それに対し店側はどのようなことを心がけていると思うか尋ねると「客にたくさん買ってほしい」や「多くの客に来てほしい」といった予想が出された。児童は、消費者は消費者として、販売者は販売者としてそれぞれ注力していることが異なると捉えている様子であった。

そこで、買い物の際に利用することの多い共通ポイントカードを事例に挙げ、そこで収集される大量な情報が情報通信技術に支えられ消費者、販売者の相互に恩恵をもたらしていることを捉え、これからの情報通信技術の活用はどのように発展していくことが望ましいか考える。

## (2) このような教材で (教材観)

本学習は、小学校学習指導要領社会科第5学年の内容(4)に関するア(イ)「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。」に基づいて、「共通ポイントカードを活用した売買」を題材に単元を設定した。

近年はインターネットによる物の売買が急速に普及しており、その市場規模は2020年には10兆円を超えるという予測もある(富士経済調査)<sup>1)</sup>。しかし、市民生活においては「店」での買い物は未だに頻繁に行われている。その際に活用されているのがポイントカードである。しかしポイントカードはその店でのみ活用できるものだけでなく、他の店で広く活用できるものもある。それはなぜか。まさしく学習指導要領の内容「大量の情報」=ビッグデータの収集と活用であり、それに伴い販売側だけでなく我々消費者も恩恵を受けることができる。大量の情報の収集と分析によって、より良い商品を手にし、より便利な暮らしが現在進行形で送れていることを、実感を持って捉えられるような学習活動を行っていく。

## (3) 次のように指導する (指導観)

前時の学習では、「Society 5.0」で紹介されているように、情報通信技術の発展によって、これからの私たちの暮らしがより便利になっていくことを学習した。では、そうした情報通信技術に対応したデバイスを手に入れない限り、暮らしの向上は図れないのだろうか。情報通信技術の発展は未来の話ではなく、現在進行形である。しかし、児童にとっては今現在の暮らしの中でどのように情報通信技術が利用され、自分たちの生活に活用されているのか見えずらい実態がある。本時では、情報通信技術の発展に伴う豊かな暮らしは未来の話ではなく、今も私たちの消費生活の中でも情報が利活用されていることを理解し、それに伴い自分たちの消費行動が店側の商品開発や在庫管理などと密接に関係していることを学ぶ。その学習を通し、ポイントカードにより消費・販売の双方がより良い関わり方を築いていくことが重要であることに気づかせたい。

また、本学習ではゲストティーチャー(GT)を招き、Team Teachingの「補助型」を形成し、専門的な事例をわかりやすく解説していくこととした。

## 2. 学習の内容について

## (1) 単元の目標

情報通信技術の進歩に伴い、大量の情報を収集し活用することで産業が変化し発展していること、それを受けて国民生活も向上していることなどを基に、我が国の国民生活と産業と情報の関わりについて理解する。

(2) 学習計画について (5時間扱い)

時間	課題	学習内容
1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題を立てる。</li> <li>学習問題「情報通信技術の発展で私たちの暮らしはどのように豊かになるのだろうか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活を振り返り、情報通信技術によって、どのように暮らしが豊かになるのか考える。</li> </ul>
2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信技術の発展によって私たちの暮らしがどのように豊かになるのか調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料などから、ライフライン、生産・販売、育児や介護などの様々な分野で情報通信技術が活用され、より便利な暮らしとなっていくことを捉える。</li> </ul>
3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠い未来の話ではなく加速度的に情報通信技術の進歩がはかられていることを理解した上で、様々な分野で情報通信技術が活用され、国民生活が向上していくことを考え、表現する。</li> </ul>
4時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかったことから、さらに考える。</li> <li>学習問題「情報通信機器を買ったり、持ったりしていないと便利な暮らしはできないのだろうか」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで調べてきたことを踏まえ、情報通信技術の恩恵を受けるには新たにそうした技術に対応しているデバイス等を入手しなくてはならないのか、どのように情報通信技術の進歩が我々の暮らしを向上させているのか改めて考える。</li> <li>GTの解説から、情報の利活用によって消費・生産・販売が一体となってより豊かで便利な社会になっていくことを理解する。</li> </ul>
5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>これから、情報通信技術の活用はどのように発展していくことが望ましいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を通して、情報通信技術の発展に伴い、消費・生産・販売の好循環が期待できること、個人情報などの扱いには十分な注意が必要であることを考え、表現する。</li> </ul>

3. 本時の学習指導

(1) 目標

大量の情報の利活用によって消費・生産・販売が一体となってより豊かで便利な社会になっていくことを理解する。  
(知識・技能)

(2) 本時の展開 (4/5)

時間 (分)	●学習活動【資料】 ○主な発問	■子どもの主な活動 ・期待される子どもの反応	※指導上の留意点 ☆評価
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時の学習を振り返る。</li> <li>○情報通信技術の発展によって私たちの暮らしはどのように豊かになるのだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■前時までを振り返っての発言</li> <li>・より便利になる。</li> <li>・色々な場面でスピーディーになる。</li> <li>・遠隔診療によって病気の人やお年寄りも暮らしやすくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ノートや資料から理由や根拠を持って発言できるように促す。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習問題を立てる。</li> <li>○豊かな暮らしをしていくためには、最新の機器を買ったりしなくてはならないのだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうした技術に対応しているモノを買わなくてはならないのではないか。</li> <li>・買えない人、持っていない人は便利な暮らしができないのかな。</li> <li>・家庭は教科書に載っているロボットやドローンは持っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※実生活に照らし合わせ、想起するよう促す。</li> </ul>

時間 (分)	●学習活動【資料】 ○主な発問	■子どもの主な活動 ・期待される子どもの反応	※指導上の留意点 ☆評価
子どもたちと立てたい学習問題 「情報通信機器を買ったり、持ったりしていないと便利な暮らしはできないのだろうか」			
10	●日常の買い物の場面から考える。 ○どんなことに気を配って買い物をしていますか。【コンビニでの買い物の様子の写真】 ○お店側はどうだろう。	■売買の場면을振り返る。 ・出来るだけ安く、良いものを買おうとする。 ・たくさん買ってもらいたい。 ・たくさんもうけを出したい。	
	○買い物をする時、店員さんとどんなやり取りをしますか。	・いらっしやいませ。 ・〇〇円になります。 ・ポイントカードはお持ちですかと聞かれる。	
5	■ポイントカードについて考える。 ○なぜ、色々なお店で使える共通ポイントカードがあるのだろう。	■GTから、ポイントカードの説明を聞く。 ■共通ポイントカードの意味を考える。 ・色んなお店で買ってもらうためかな。 ・誰が何を買っているか知るためかな。	※実際のポイントカードを見せ、多くの種類があること、共通ポイントカードがあることに気付かせる。
5	●個人情報について考える。 ○なぜ、共通ポイントカードの利用に個人情報の登録が必要なのだろうか。	■GTから、個人情報と匿名加工情報についての説明を聞く。 ・たくさんの人の買った情報が、誰かはわからないようにして集められているんだね。	※個人情報について事例をあげてわかりやすく解説する。 ※個人情報の取り扱いの重要性について押さえる。
5	●ビッグデータについて考える。 ○自分が店長だったらどんな情報がほしいだろう？	■自分ならビッグデータをどのように活用するか考える。 ・どんな物がどんな人に買われているのか知りたい。 ・どの時期に何が良く売れているのか知りたい。	
5	●ビッグデータの収集と分析の結果がどのように店側に活用されているか紹介を受ける。 ○店側からしたらこういう情報を活用するとどんなことが期待できるかな。 ○消費者として良いことはあるかな。	■店側のメリットを考える。 ・在庫の管理がしやすい。 ・常に売れるものを仕入れておける。 ・お客さんに喜んでもらえる。 ■消費者側のメリットを考える。 ・いつも買っているものが常に売っている。 ・より良い商品を買うことができる。	
5	●ビッグデータの活用が進んだ社会について考える。 ○ビッグデータの活用によってこれからの社会はどうなっていくでしょう。	■考えをノートに書く。発表する。 ・消費者や生産者、販売者がそれぞれ効率的に活動することができる。	☆大量の情報の利活用によって消費・生産・販売が一体となってより豊かで便利な社会になっていくことを理解している。(知識・技能：ノート・発言) ※ノートを評価し、次時の学習で活躍させる児童・支援する児童を決める〈事後〉。



(3) 板書・資料

**テーマ 情報通信と私たちの生活**

**前の授業の振り返り**

- 情報通信技術の発展によって、私たちの暮らしはより豊かに、便利になることがわかった。

**残った疑問**

- 情報通信機器を買ったり、持ったりしていない人はどうなるのか？

**学習問題**

- 情報通信機器を買ったり、持ったりしていないと便利な暮らしはできないのだろうか？

**「なぜ色々なお店で使えるのか」予想**

- お店同士の認知度を上げるため？
- 色々なお店で買ってもらうため？

**先生のお財布の中**

色々なお店で使えるポイントカード

そのお店でしか使えないポイントカード

**買い物**

いらっしゃいませ  
ポイントカードはお持ちですか？

**ポイントカードとは？**

- 買い物200円→1ポイントたまる
- 1ポイント=1円でお店で使える
- たくさんたまるとサービスを受けられる。

**「なぜポイントの利用に個人情報の登録が必要なのか？」予想**

- 誰が買っているか調べるため？

個人情報→匿名加工情報

- 誰が買っているかはわからない

**お店**

- たくさん買って欲しい
- いっぱいきて欲しい

**お客**

- 安く買いたい
- 良いものを買いたい
- 安全なものを買いたい

「もし自分がスーパーマーケットの店長だったらどんな情報が欲しいか」

**予想**

- いつ何がよく売れているか
- どんな人に何が売れているか

**買う**

- 情報を与える
- 良いものを買う

**売る**

- 情報を得る
- 分析をする
- 良いものを売る

(注)

1) 富士経済グループ「プレスリリース第19043号」通販市場は2017年に10兆円突破

URL [https://www.fuji-keizai.co.jp/press/detail.html?cid=19043&view\\_type=1](https://www.fuji-keizai.co.jp/press/detail.html?cid=19043&view_type=1)